

新たな地域除排雪の取組事例

- 「雪国イノベーション創出」事例
- 共助による地域除雪の取組事例



平成26年4月 国土交通省国土政策局地方振興課

「雪国イノベーション創出」事例

1. 簡易な「命綱」、「アンカー設置工法」(NPO法人中越防災フロンティア)
2. 除雪ボランティアを取り入れた「社員研修」((一社)北海道開発技術センター)
3. 県内・非豪雪地帯住民による除雪支援(高島市社会福祉協議会 等)
4. 除雪ボランティアセンター運営ノウハウの成熟化(柏崎市社会福祉協議会)
5. 地域除雪を通じた地域間交流・人的交流の拡大(尾花沢市民雪研究会)

※雪国イノベーション創出＝雪国の問題解決に役立つ、新しい技術や仕組みを創出するもの

「雪国イノベーション創出」事例

1. 簡易な「命綱」、「アンカー設置工法」

★ポイント

- 開発した「命綱」は安全帯とロープから構成。ホームセンターやインターネットで購入可能
- 「アンカー」は試行段階。様々な屋根形状に活用できるように4種類を試作・検討

- ・ NPO法人中越防災フロンティアでは、雪下ろし中の転落事故の防止に向けて、「越後雪かき道場」の活動の中で、実用的な命綱(安全帯とロープ)の開発及び普及に取り組んでいる。
- ・ 平成24年度から、長岡市川口木沢をモデル地区として、数件の家屋の屋根にアンカー(安全帯に結ぶロープの固定具)を設置し、安全帯の使用やアンカー設置の指導ができる人材を育成している。

【実施主体】 NPO法人中越防災フロンティア

【活動地域】 新潟県が中心

【取組の経緯】

- ・ 平成19年1月より開催している「越後雪かき道場」の活動の一環として、雪下ろし中の転落事故防止対策について検討・試行してきた。
- ・ 平成24年より、民間業者と協力して安全帯を開発し、越後雪かき道場の中級コースとして、命綱講習を本格的に始動するとともに、長岡市川口木沢をモデル地区として、建物の屋根上で命綱を固定するためのアンカーの設置も進めている。

【主な取組と成果】

- ・ 民間業者と協力して、「住民が雪下ろし作業時に着用する」という点を重視した安全帯を開発し、平成24年よりホームセンターにて販売を開始した。
- ・ 平成25年には安全帯にさらに改良を加え、実用性を大幅に向上。インターネットで全国どこでも購入できるようになった。
- ・ 雪かき道場における命綱講習の修了者(累計)は、中級コース(安全帯の着用と実践)で103名、上級コース(安全帯を含めた安全管理の指導者講習)25名となった。
- ・ 長岡市川口木沢地区において、4種類のアンカー(「トタン屋根+足場用鋼管」「棚用金具+足場用鋼管」「トタン屋根+ガス管」「溝型鋼+ワイヤー」)を設置し、それぞれの有効性を検証できた。

【開発した安全帯(ホームセンターにて販売)】



【アンカーの設置】



【実証検証】



「雪国イノベーション創出」事例

2. 除雪ボランティアを取り入れた「社員研修」

★ポイント

- 全国初の除雪ボランティアを取り入れた企業研修の可能性を検討
- 今後、研修目的の明確化、研修プログラムの内容精査等を実施

- ・（一社）北海道開発技術センターでは、平成24年8月に「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」を発足。民間企業の社員研修プログラムとしての除雪ボランティアの可能性を検討している。
- ・平成26年1月と2月、当別町において除雪ボランティアを通した「課題解決型新人・若手社員研修会」を試行的に開催した。

【実施主体】 一般社団法人北海道開発技術センター
 【活動地域】 北海道

【取組の経緯】

- ・平成24年度、「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」（通称：ボラベーション研究会）を発足した。
- ・これまで実施していた上富良野町における「除雪ボランティアツアー雪はね隊」、三笠市弥生地区における「北海道コココーラ等による企業連携除雪ボランティア」などの除雪ボランティア活動を、平成24年度から同研究会にて共同で企画・実施した（雪はねボランティアツアー、4地域 合計6回 参加者約200名）。
- ・平成25年度は、除雪ボランティアを通した「課題解決型新人・若手社員研修会」として、社員教育の可能性を検証している。

【主な取組と成果】

- ・研修会は、札幌市内にある企業の新人・若手社員を対象に、平成26年1～2月の2日間、当別町にて開催した。当日の受講者数は14名、企業は6社（飲料メーカー、テレビ局、建設会社等）であった。
- ・ツアー会社を通じて参加者を募集。チラシ5,000部を発送。また、CSRIに積極的に取り組んでいる企業を通じて募集した。
- ・作戦会議や振り返りなどを実施したことで、受講者はチーム内の目標の達成感、有能感や有効感をより感じることができた。
- ・今後、展開していく上での課題や改善点が確認された。雪かきをツールとした研修目的を明確にし、プログラムの内容精査が必要である。

【H25試行段階の研修目的・プログラム】

目的

＜本プログラムで身につけられるもの＞

- 除雪ボランティア活動を実践的ケーススタディとして、**担当業務遂行能力・精神的タフネスさ・キャリア形成思考・他者視点**を総合的に習得できます。
- 企業の社会的責任**の意義を経験的に知ることができます。
- 他社の社員との交流を通じて、**自社へのアイデンティティの獲得と他社（他者）とのつながり**を構築することができます。

＜研修プログラム＞

日程	時間	プログラム
1日目 1/25(土)	8:00	集合・受付(札幌バスターミナル)
	8:15～9:45	出発 → バス移動 → 研修会場到着
	9:45～10:00	開会・趣旨説明
	10:00～10:45	当別町の概要紹介 → 除雪技術講習
	10:45～11:45	グループに分かれ、雪かき作戦会議
	11:45～12:45	昼食
	12:45～16:00	対象世帯への移動 → 除雪作業
	16:30～17:30	振り返りワークショップ
	17:30～18:30	研修会場出発 → バス移動 → 札幌ターミナル到着、解散
	18:30	
2日目 2/1(土)	8:00	集合・受付(札幌バスターミナル)
	8:15～9:45	出発 → バス移動 → 研修会場到着
	9:45～10:00	開会・趣旨説明
	10:00～10:45	グループに分かれ、雪かき作戦会議
	10:45～12:30	対象世帯への移動 → 除雪作業
	12:30～13:30	昼食
	13:30～15:30	対象世帯への移動 → 除雪作業
	15:30～17:30	振り返りワークショップ
	17:30～18:30	研修会場出発 → バス移動 → 札幌ターミナル到着 → 交流会
	18:30	

プログラム



「雪国イノベーション創出」事例

3. 県内・非豪雪地帯住民による除雪支援

★ポイント

- 西日本の豪雪地帯では、近傍の非豪雪地帯住民を除雪の担い手として活用可能
- 豪雪地帯指定の市町村と県が協議しながら仕組みを構築

- ・平成25年度、高島市社会福祉協議会は近隣の豪雪地帯市町村社協、滋賀県社協、滋賀県(県庁)と協議を行い、**県南部や京阪神等の都市部住民を除雪ボランティアとして活用する仕組み**を構築した。

【実施主体】 高島市社会福祉協議会、長浜市社会福祉協議会、米原市社会福祉協議会、滋賀県社会福祉協議会

【活動地域】 滋賀県高島市、長浜市、米原市等

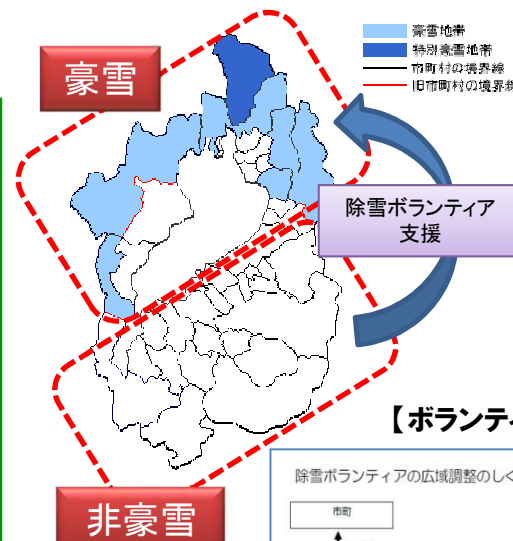
【取組の経緯】

- ・平成24年度、高島市社会福祉協議会は市内の豪雪地帯の除雪支援体制のあり方を関係者が協議する場として「**除雪支援体制ネットワーク委員会**(以下「委員会」)」を設置し、「**高島市除雪支援アクションプラン**」(以下「アクションプラン」)」を策定した。
- ・高島市社会福祉協議会は、既に立命館大学の大学生をボランティアとして受け入れていた。参加者からは大学生以外にも市外から除雪ボランティアを受け入れることが必要との意見が出され、**アクションプラン**において「**市外からのボランティアの受入強化**」施策が盛り込まれた。
- ・**委員会には滋賀県社会福祉協議会も参加**しており、高島市社会福祉協議会としては、**県社協や県内豪雪地帯社協とともに、非豪雪地帯との連携のあり方を検討**することになった。

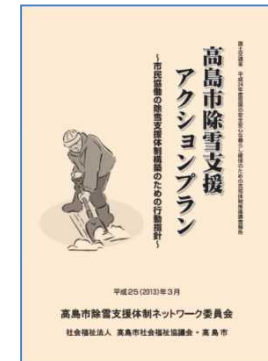
【主な取組と成果】

- ・平成25年度より、滋賀県および滋賀県社会福祉協議会が「**滋賀県災害ボランティアセンター**」を常設したことを受けて、高島市社会福祉協議会、長浜市社会福祉協議会、米原市社会福祉協議会、滋賀県社会福祉協議会、滋賀県(県庁)による**検討会議を設置**した。
- ・**県南部等の降雪の少ない人口密集地域を中心にボランティアを募集(登録)**し、湖西、湖北地域の大雪時における除雪ボランティアをコーディネートする体制づくりを行った。

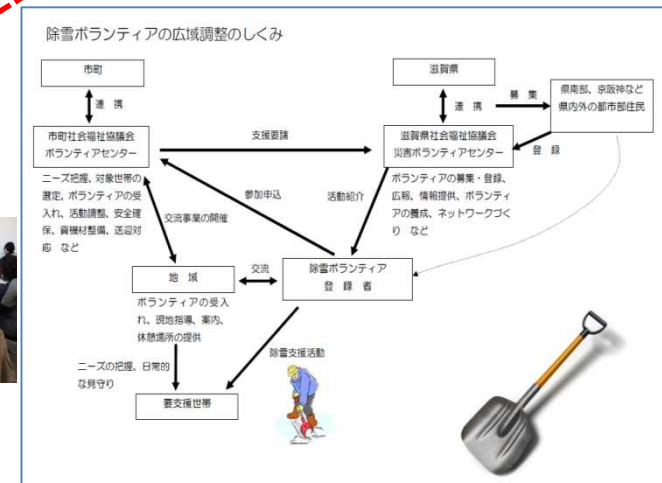
【滋賀県の除雪ボランティア支援】



【アクションプラン】



【ボランティアを募集(登録)スキーム】



【委員会】



「雪国イノベーション創出」事例

4. 除雪ボランティアセンター運営ノウハウの成熟化

★ポイント

- 前年度の運営上の課題を翌年度に見直す「カイゼン」活動を継続的に展開
- 運営方法や文書様式等の様々なノウハウを「見える化」

- ・ 柏崎市では平成18年豪雪をきっかけとして、除雪ボランティア活動の受入体制整備を進めてきた。
- ・ 平成21年度から5年間連続して除雪ボランティアセンターを開設し、前年の活動の課題を翌年度の取組の見直しに活用している。

【実施主体】 柏崎市社会福祉協議会
 【活動地域】 新潟県柏崎市

【取組の経緯】

- ・ 平成18年豪雪をきっかけに除雪ボランティアの体制整備を進めた。
- ・ 平成18年度から3年連続の暖冬に伴い、降雪量も少なかったため実際の活動はなかった。その間「除雪ボランティアを考えるワークショップ」等を開催し、地元の理解、雪処理の担い手確保に努めた。
- ・ 平成21年度からは4年連続で市に豪雪対策本部が設置され、そのうち平成22年度から3年連続で災害救助法が適用された。除雪ボランティアセンターも平成21年度より5年間連続して開設している。

【主な取組と成果】

- ・ 平成21年度から毎年、除雪ボランティアセンター運営方法の「カイゼン」を行ってきた。
 [運営方法の「カイゼン」事項]
 H22年度 依頼ルート、外部ボランティア用宿泊施設斡旋
 H23年度 対象地域の拡大、拡大地域への周知徹底
 H24年度 コーディネーター制度導入、除雪場所の事前調査、希望日事前申告
 H25年度 降雪期前からの説明強化、コーディネーター補佐ポスト新設
- ・ 毎年の活動の振り返り、除雪ボランティア活動に使用する文書様式、情報ボード、センターでの道具の使い方等のノウハウが冊子やDVDとして「見える化」されている。
 [文書様式]
 実施要領、除雪ボランティア依頼票、除雪ボランティア個人登録カード、ボランティア受付簿、ボランティア活動の注意点、活動報告書、募集チラシ

【運営方法の見直しの変遷】

年度	「カイゼン」事項
H22	<依頼ルート> 町内会長または民生委員から依頼票を提出
	<外部ボランティア用宿泊施設斡旋> 地元民宿と連携
H23	<対象地域の拡大> 市全域に拡大
	<拡大地域への周知徹底> 町内会長・民生委員等への説明会開催
H24	<コーディネーター制度導入> 地元除雪経験者に委嘱
	<除雪場所の事前調査> 事前登録制として、事前に現場を確認
	<希望日事前申告> 活動希望を事前申告。活動日を調整
H25	<降雪期前からの説明強化> 8月から随時説明会開催
	<コーディネーター補佐ポスト新設> コーディネーター養成を目的に同行

【文書様式】



【情報ボード・道具の使い方】



【事前調査】



「雪国イノベーション創出」事例

5. 地域除雪を通じた地域間交流・人的交流の拡大

★ポイント

- 地域除雪を通じて、友好都市や災害協定都市、大学等との継続的な関係を構築
- 小・中・高校生、地元企業、一般ボランティア、地域住民等の多様な主体間交流も拡大

「尾花沢市民雪研究会」が始めた共助による地域除雪の取り組みは、平成24年度には「尾花沢市除雪ボランティアセンター」が受け皿となり、多様な担い手を結びつけながら、**地域の除雪問題に対応**するとともに、**地域活性化イベントとしての展開**も図っている。

【実施主体】 尾花沢市民雪研究会、尾花沢市除雪ボランティアセンター
【活動地域】 山形県尾花沢市

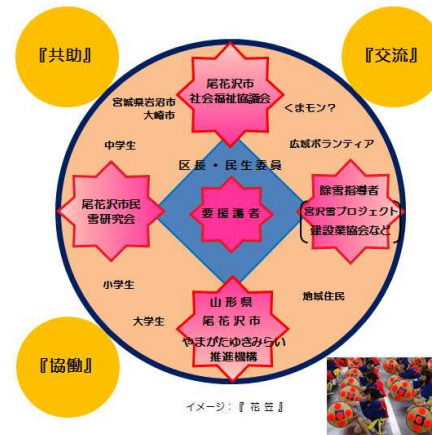
【取組の経緯】

- ・平成15年度に設立された「尾花沢市民雪研究会」は、当初は利雪テーマを扱っていたが、平成20年度から共助による地域除雪の活動を行うようになった。
- ・その後、共助による地域除雪箇所の拡大、中学生の除雪ボランティア、災害協定締結都市との交流等が進められた。
- ・平成24年度には「尾花沢除雪ボランティアセンター」が開設され、尾花沢市民雪研究会が担っていた役割を引き継ぎ、多様な担い手を結びつける活動を展開している。

【主な取組と成果】

- ・共助による地域除雪活動をきっかけとして、**様々な地域や主体との交流**が継続的に行われている。
[地域間交流・人的交流]
 - ・災害時相互協力協定との交流(宮城県仙台市福住町内会)
 - ・友好都市との交流(宮城県岩沼市)
 - ・大学社会人教育プログラムとの連携(山形大学「社会人力育成山形講座」)
 - ・大学研究室との連携(弘前学院大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北工業大学、山形大学等)
 - ・中学生と大学生の除雪ボランティア交流、中学生の高齢者支援(雪かき塾)
- ・**地域活性化イベントの要素**を持たせた除雪活動も取り組み始めた。
[取り組み内容]
 - ・除雪活動へのキャラクター参加(宮沢小学校交流除雪ボランティア:くまモン)
 - ・観光要素のあるプログラム(银山温泉宿泊を伴う広域除雪ボランティア)

【共助による地域除雪の概念図】



【中学生と大学生の意見交換】



【除雪活動へのキャラクターの参加】



【除雪活動への大学生の参加】



共助による地域除雪の取組事例

<活動範囲>

<事例名(実施主体)/対象市町村>

- | | |
|---------------|---|
| 【自治会・町内会等の範囲】 | 1. 「三瀬スノーシーパー(S.S.S.)」(三瀬地区自治会)/山形県鶴岡市 |
| | 2. 「町内会登録ボランティアのモデル検討」(平内町社会福祉協議会)/青森県平内町 |
| 【小学校区程度の範囲】 | 3. 「池月を助け隊」(池月サポートセンター)/宮城県大崎市 |
| | 4. 「冬の通学路の見守り」(NPO法人市民活動支援組織NIVO)/福島県会津坂下町 |
| | 5. 「銀山地域づくり研究会」(銀山地域づくり研究会)/北海道仁木町 |
| 【市町村全域】 | 6. 「まちぐるみの除雪支援体制」(藤里町社会福祉協議会)/秋田県藤里町 |
| | 7. 「ボランティア募集・受入シミュレーション」(香美町社会福祉協議会)/兵庫県香美町 |
| | 8. 「地元大学生の除雪ボランティア活用」(NPO法人とむての森)/北海道北見市 |

共助による地域除雪の取組事例

1. 三瀬スノーシーパー(S.S.S.)

活動範囲：自治会・町内会等

★ポイント

- 自治会住民による有償除雪ボランティア組織(メンバー17名)が高齢者等の玄関前を除雪
- リーダーが集落内を巡回し、自発的に避難路や歩道等も除雪

- ・鶴岡市三瀬地区自治会では、将来の人口減少・コミュニティ保持対策の一環として平成24年度から有償除雪ボランティア組織を設立している。
- ・平成25年度は昨年度の取組を踏まえて、リーダー制度導入、装備増強、名称変更等を行い、ボランティア活動を充実させている。

【実施主体】 鶴岡市三瀬地区自治会

【活動地域】 山形県鶴岡市

【取組の経緯】

- ・約1,550人、約520世帯の自治会「三瀬地区」では、人口減少・コミュニティ保持の対策が求められていた。
- ・海沿いで通年降雪量は少ないが突発的な降雪が発生すること、人口の2割が75歳以上であること、コミュニティ崩壊が進んでいることから、平成24年度から除雪ボランティア事業を開始した。

【主な取組と成果】

- ・ボランティア組織は自治会生活環境部が母体となつて設立されたもので、活動内容、料金、体制等は以下のとおりである。

[活動内容]

- ・雪が積もって通行困難な場合、玄関先から最寄幹線道路(市・県等が除雪する道路)までの通路を確保
- ・S.S.S.リーダーは集落内巡回。避難路や歩道等必要と判断した場合はS.S.S.メンバーを招集して除雪実施

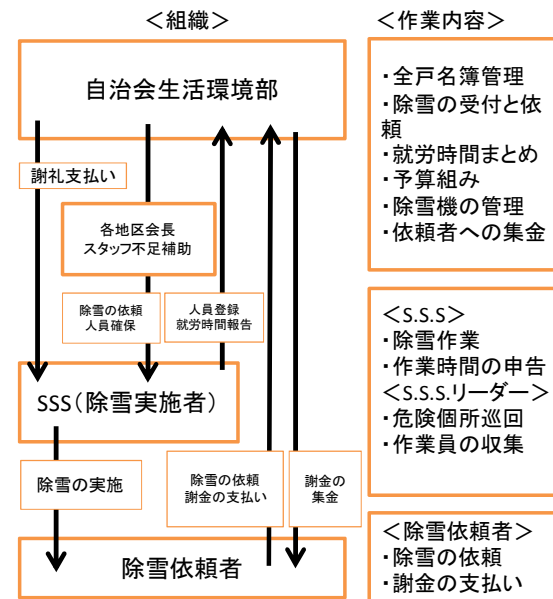
[作業委託料金]

- ・有償ボランティアの時給：800円(500円実費、300円自治会負担)

[体制]

- ・平成24年度 10名 平成25年度 17名(20代の若者も2名参加)
- ・ボランティア募集のチラシ配布・説明会を開催した。また平成25年度から団体名称を「三瀬スノーシーパー(S.S.S.)」とし、活動ジャンパーや除雪用具を充実させた。結果としてメンバーが増加した。
- ・リーダー制度を導入したことで、避難路や歩道等の危険箇所の巡回が行われるようになった。

【三瀬スノーシーパーの仕組み】



【除雪用具・活動ジャンパー】



除雪協力員大募集!

【チラシ】

日頃より三瀬地区自治会の発展に協力いただきありがとうございます。
三瀬地区で一人暮らしのお年寄りや世帯の除雪機が少く、大雪が降ると雪が積もって通行困難な場合があります。この地区は交通の便が良くありません。道路が凍結し、歩道が凍結して危険な場合があります。
この地区では、大雪の降った時に、危険な箇所を巡回し、必要に応じて除雪を実施いたします。ぜひ住民の皆様のご協力をお願いいたします。

期 間：11月下旬～3月上旬ごろ
活動の終わった後に出動します。
作業内容：お年寄り・一人暮らしの世帯の除雪機(簡易除雪機)の巡回
三瀬地区の雪による危険箇所の除雪
作業時間：1時間あたり1,000円(自治会負担)の除雪機
その他：作業用具の整備
※除雪機はスノーシュー・スノーシューの活用

ご協力いただける方は三瀬地区で大雪で困ることを想定して、
申し込み・お問い合わせ：7:30-20:00
除雪作業協力員への説明会を実施します
日時：10月16日(水) 18:00～
場所：三瀬コミュニティセンター
内容：除雪機の手配と除雪機の手配
※参加費はかかりませんが、この説明会参加費に
参加費がかかります。参加費は、この説明会参加費に
参加費がかかります。

共助による地域除雪の取組事例

2. 町内会登録ボランティアのモデル検討

活動範囲：自治会・町内会等

★ポイント

- 町内会の住民を「登録ボランティア」として認定し、地区内要支援世帯の除雪を実施
- 平成25年度は2町内会でモデル的に試行。今後、モデル町内会の拡大を検討

- ・平内町社会福祉協議会では、平成23年度の大雪をきっかけとして、共助による地域除雪の必要性を感じていた。
- ・平成25年度から、2つのモデル町内会において登録ボランティアによる高齢者宅等の除排雪を始めた。

【実施主体】平内町社会福祉協議会

【活動地域】青森県平内町

【取組の経緯】

- ・平成12年より平内町社会福祉協議会では役場ボランティアや職場ボランティア等の協力を得て高齢者宅等の除排雪を行ってきた。
- ・平成23年度の大雪では、高齢者等から多数の除雪要望が社会福祉協議会に殺到して、当時の体制では迅速な対応が難しかった。
- ・将来の町の高齢化を考えると、今の段階から高齢者宅の除排雪体制を町内会単位につくる必要があると判断した。

【主な取組と成果】

- ・モデル町内会における除雪支援体制は以下のようになる。
[モデル町内会]
・沼館町内会：214世帯 茂浦町内会：97世帯
[登録ボランティア]
・沼館町内会：16名 茂浦町内会11名
[活動内容]
・屋根の雪庇(せっぴ)取り、落とした雪の片づけ、窓の明かり取り、玄関前の除雪、生活道路の確保、バス停・ゴミ捨て場の除雪等
- ・全ての町内会長に案内文書を送付してモデル町内会を募集した。
- ・モデル町内会選定後、町内会住民との話し合いの場を設けた。事業の趣旨説明、質問・要望等を受けて、除雪活動の細部を詰めた。

【モデル町内会の登録ボランティア数】

	沼館町内会	茂浦町内会
総世帯数	214世帯	97世帯
一人暮らし高齢者①	14世帯	6世帯
高齢者二人世帯②	14世帯	5世帯
要支援世帯①+②	28世帯	11世帯
登録ボランティア数	16名	11名

【話し合いで出された主な意見】

- 1「除排雪の対象者は？」
- 2「どの程度、雪片付けをすればいいの？」
- 3「何かあった時はどうするの？」
- 4「いつやるの？」
- 5「除排雪に必要な備品が欲しい！」

【住民との話し合い】



【登録ボランティアによる除雪活動】



共助による地域除雪の取組事例

3. 池月を助け隊

活動範囲: 小学校区程度

★ポイント

- 地域住民による有償除雪ボランティア組織(隊員13名)が個人宅・事業所駐車場を除雪
- 依頼受付・協力者手配・料金徴収等の事務作業は別団体がサポート

「池月を助け隊」は、池月地区の高齢者宅や事業所駐車場の除雪を行うために平成23年に結成された有償の除雪ボランティア組織である。

【実施主体】 池月を助け隊、池月地域づくり委員会

【活動地域】 宮城県大崎市

【取組の経緯】

- 池月小学校区の地域課題解決の調整役である「池月地域づくり委員会」の元、様々な地域団体の事務支援等を行う団体として「池月サポートセンター」が平成22年に開設された。
- 平成23年には個人宅の生活道路や事業所駐車場等の除雪活動を行う有償除雪ボランティア団体「池月を助け隊」が結成された。

【主な取組と成果】

平成25年度は活動開始後3年目であり、地域除雪の方法が確立した。

[除雪の範囲]

- ・玄関先から公道まで、歩行が可能な程度の幅

[除雪対象者]

- ・高齢者世帯、自力では除雪が困難な世帯、除雪を頼める人がいない世帯等

[除雪活動日]

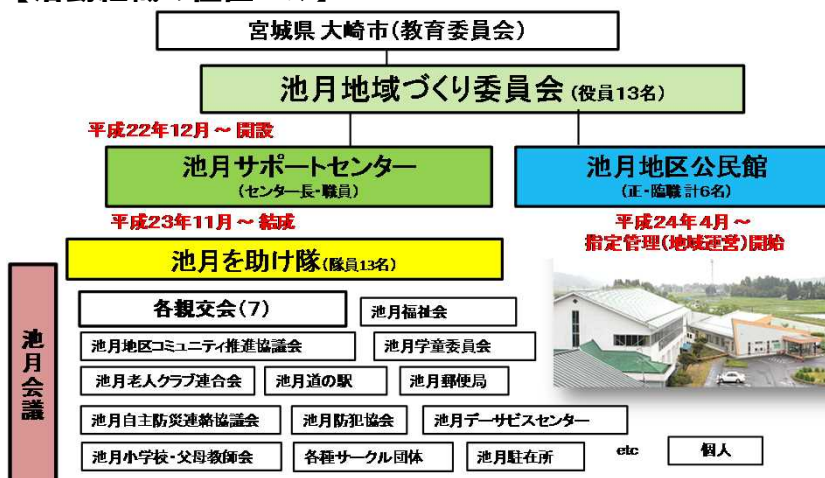
- ・パターン1 冬期間契約で除雪 パターン2 依頼時にその都度除雪

[利用料金]

- ・手作業料金: 30分毎500円 機械作業除雪: 1回5千円

- 除雪活動に専念できるよう、作業依頼の受付や協力者の手配、料金徴収等の事務作業は「池月サポートセンター」が代行している。
- 平成25年度は11月から毎月1回の打合会を持ち、除雪依頼者と除雪作業協力者からの意見を聴取して問題点を解消しながら進めた。
- 通院、買い物、法事、介護車両の乗降等、依頼者の個々の要望に応じて、除雪場所や除雪開始時間について柔軟に対応した。

【活動組織の位置づけ】



【「池月サポートセンター」と「池月を助け隊」の役割分担】

池月サポートセンター	池月を助け隊
<ul style="list-style-type: none"> ・作業依頼の受付 ・協力者の手配 ・利用料金の徴収 ・謝金の支払い ・備品等の購入から支払い ・会計帳簿の整理等 	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪作業(手作業、機械作業) ・除草作業(" ")

【「池月を助け隊」による除雪作業】



共助による地域除雪の取組事例

4. 冬の通学路の見守り

活動範囲: 小学校区程度

★ポイント

- 多様な主体が連携した冬期通学路の見守り体制づくり
- 活動周知のためには広報誌掲載、ポスター掲示、チラシの全戸配布等が有効

- ・ 平成25年度、NPO法人市民活動支援組織NIVOでは、子ども達の安全な登下校のため、地域の関係機関が連携して、冬期の通学路のパトロール等を開始した。

【実施主体】 NPO法人市民活動支援組織NIVO(以下「NIVO」)

【活動地域】 福島県会津坂下町

【取組の経緯】

- ・ NIVOは、平成15年に、町の振興計画策定のために公募された委員会メンバーを中心に設立されたNPO法人である。
- ・ また東日本大震災にて避難者の受入等のために「緊急支援町民ボランティアセンター」が設置された。平成24年度には「会津坂下町ボランティアセンター」が設立され、町内ボランティアに対する機運が高まっている。
- ・ 町による教育施設適正配置に伴って通学路が変更になったばかりでなく、交通量の多い箇所もあるため、共助による通学路見守りの必要性が高まっていた。

【主な取組と成果】

- ・ 平成25年、実行委員会を組織し、定期的に会合を開いた。各関係機関に対して事務局が事前の趣旨説明と協力依頼に力を入れたため、良好な連携体制(実行委員会)が構築できた。
[実行委員会メンバー]
・ 小学校PTA、中学校PTA、地区地域づくり協議会、地区自治会長会、地区育成会、青年会議所、商工会青年部、町政策企画班、ボランティアセンター(右上参照)
- ・ 平成25年度は、通学路のパトロール、凍結箇所の氷割りと融雪剤散布の作業を行った。
- ・ 活動に際して、除雪作業への協力要請を広報誌に掲載し全戸配布したり、主要施設にポスターを掲示したり、チラシを作成・配布するなどして、周知・啓発に努め、住民の関心を高めた。
- ・ 活動からわかった危険箇所は小・中学校にも報告し、情報共有した。

【実行委員会メンバー・役割分担】

- ① 会津坂下町ボランティアセンター(NIVO)／事務局
- ② 子ども見守り隊(坂下地区地域づくり協議会)／巡回・安全指導
- ③ 坂下南並びに東小学校PTA、坂下中学校PTA／巡回・啓蒙・除雪ボランティア
- ④ 社団法人会津坂下青年会議所並びに会津坂下町商工会青年部／啓蒙・除雪ボランティア
- ⑤ 坂下地区自治会長会／啓蒙
- ⑥ その他一般ボランティア／除雪ボランティア
- ⑦ 町役場政策財務部政策企画班／情報提供・施設機器等利用調整

【実行委員会】



【通学路のパトロール】 【ポスター・チラシ】



【危険箇所の氷割り】



【融雪剤散布】



共助による地域除雪の取組事例

5. 銀山地域づくり研究会

活動範囲:小学校区程度

★ポイント

- 行政が仕掛けた地域住民主体の研究会の主導権を地域住民にバトンタッチ
- 研究会のマネジメント面では、地域の大学がバックアップ

- ・平成25年度、仁木町では銀山地域をモデルとして共助による地域除雪体制づくりを視野に入れた、「銀座地域づくり研究会」を立ち上げて、住民等と地域の除雪課題等について話し合いを行った。
- ・冬期には話し合いの成果として「共助除雪」と「交流」を組み合わせたイベント「白銀物語」を開催した。

【実施主体】 銀山地域づくり研究会

【活動地域】 北海道仁木町

【取組の経緯】

- ・銀山地域は町内で最も降雪量が多く、また高齢化率も約30%と高い地域である。一方、地域には様々な文化・スポーツ活動が活発に行われ、各種団体が活動している。
- ・現在の地域除雪は個人や隣近所単位で行われているが、今後高齢化が進み、担い手の不足することを考えると、各種団体の力も活用しながら、銀山地域全体で除雪体制を構築する必要がある。

【主な取組と成果】

- ・平成25年度、仁木町が事務局となり、小樽商科大学を外部有識者として、地区内関係者から構成される「銀山地域づくり研究会」を立ち上げた。
- ・研究会では、大学の協力を得て、学生と地元関係者が連携した「全戸アンケート調査」や「住民ワークショップ」を行い、冬期間の除排雪実態、暮らしのニーズ、今後の方向性等を幅広く議論した。
- ・議論結果を形に示すため、将来の世代間交流・地域交流の基礎づくりとして、地域の一斉除排雪日と交流イベントを組み合わせた「白銀物語」を開催した。
- ・次年度以降、「銀山地域づくり研究会」は地域住民自身が事務局を担って活動していくことになった。

【銀山地域づくり研究会メンバー(25名)】

銀山地域内の町内会

銀山さわやか福祉NPO

仁木消防団(銀山担当)

銀山コミュニティ推進協議会

銀山母と子の読書会

銀山学園

<外部有識者> 小樽商科大学

<事務局> 仁木町

【研究会】



【アンケート調査】



【白銀物語】



共助による地域除雪の取組事例

6. まちぐるみの除雪支援体制

活動範囲：市町村全域

★ポイント

- 高齡化率4割超、人口3.8千人の町での、あらゆるリソースを総動員した除雪支援体制づくり
- 引きこもり者、大学生ボランティア、シルバーバンク、事業者組合等の多様な主体が参画

- ・ 藤里町社会福祉協議会は、平成25年度に「除雪支援体制づくり検討会議」を開催し、地域除雪の課題について話し合った。
- ・ また引きこもり者や大学生ボランティア等の多様な主体が参画する一斉除排雪作業を試行的に行った。

【実施主体】 藤里町社会福祉協議会

【活動地域】 秋田県藤里町

【取組の経緯】

- ・ 藤里町は人口約3,800人、高齡化率約41%で、集落単位で見ると高齡化率が80%を超える地区もあり、コミュニティーを存続していくことが難しい地区も多くなっている。将来的にも隣近所等の支え合いの崩壊の可能性も否定できない地域状況にある。
- ・ また雪処理の問題は一人暮らし高齡者等の一部弱者に限定した問題ではない状況にある。町内各種団体の有機的連携等、雪処理の問題を町全体の課題として捉え、個別対応に留まらないまちづくりの支援体制づくりが必要になっている。

【主な取組と成果】

- ・ 自治会、福祉員、建設技能組合、シルバーバンク会員、行政職員等による「除雪支援体制づくり検討会議」が開催され、地域課題について話しあわれた。

[検討会議での主な意見]

- ・ 共働き世代は時間がとれないため除雪ボランティア利用のニーズが高い
- ・ 現行の町支援事業「高齡者等宅除排雪助成事業」の内容を拡充する必要がある
- ・ 地域一斉除雪は地域除雪とコミュニティ希薄化の両方の問題に有効ではないか
- ・ 町内の引きこもり者(こみっとバンク会員)や大学生ボランティア(法政大学ボランティアサークル)等が参加した「北部地区一斉除排雪」からは、地区住民の支え合い力、外部ボランティアの有効性、シルバーバンク・こみっとバンクの活用可能性、社協保有除雪機械の活用可能性等、様々な支援の方向性が確認できた。

【除雪支援体制づくり検討会議メンバー】

自治会長

建設技能組合

シルバーバンク会員

福祉員
(社協)

こみっとバンク
(社協)

除排雪事業担当(役場)

除排雪事業担当(社協)

<事務局> 藤里町社会福祉協議会

【検討会議】



【社協保有の除雪機械】



【北部地区一斉除雪】



共助による地域除雪の取組事例

7. ボランティア募集・受入シミュレーション

活動範囲: 市町村全域

★ポイント

- 広域からの除雪ボランティアの受け入れ前に、募集・受入訓練(シミュレーション)を行って課題を確認
- 除雪活動を通じた県内非豪雪地帯の高校生と地元高校生との交流・連携

- ・ 香美町社会福祉協議会では、平成24年度と平成25年度の2箇年にわたり除雪ボランティアの募集・受入の訓練を行った。
- ・ また平成25年度は冬期に除雪ボランティアの受入を行った。高校生も参加し、地元高校生との交流もあった。
- ・ 地域と協働し、福祉・防災マップを活用した除雪対象世帯の把握を行った。

【実施主体】 香美町社会福祉協議会村岡支所

【活動地域】 兵庫県香美町

【取組の経緯】

- ・ 香美町は平成17年に香住町、村岡町、美方町の3町合併でできた町である。香美町の高齢化率が35.3%(H25.3)と県内で最も高く、豪雪年は300cm前後の積雪となり、屋根の雪下ろしも必要である。
- ・ 過疎化・高齢化の影響で、地域住民の支え合いだけでは高齢者世帯等の除排雪作業が困難となりつつあり、広域から除雪ボランティアを受け入れる必要性が高まっていた。

【主な取組と成果】

- ・ 平成24年度、平成25年度の2箇年にわたり、県内からボランティアを募集する想定で、ボランティアの募集、受入れ、活動説明、現地移動、現地活動、反省会までの一連の流れを、秋口に訓練(シミュレーション)として実施した。活動リーダーの役割を明確にすること等の反省があった。
- ・ 平成25年度の冬期には、広域的なボランティア募集と町内でのボランティア募集を行った。兵庫県社会福祉協議会、但馬県民局を通じて兵庫県内に募集することで、町外からのボランティアが確保できた。
- ・ また神戸市の高校生ボランティアの受入も行い、地元高校生ボランティアとの共同除雪作業を行った。活動の最終日にはイベント的な要素も加えて連携を図り、今後の継続的な繋がりに結びついた。
- ・ なお、ボランティアが除雪する家屋については、福祉委員会と連携して、要援護者マップを活用しながら除雪対象世帯を選定・確認した。

【平成25年度のボランティア受入に係る役割分担】

- ◆ 集落役員他 ・支援を必要とする人の調整と取りまとめ
・ ニーズ取りまとめ ・集落内におけるマッチング
・ サテライト本部設置
- ◆ 町行政 ・豪雪対策本部・警戒本部とボランティアセンターとの連絡調整、
・ 移動手段
- ◆ 町社協 ・除雪ボランティアセンターの設置
・ 集落、行政、県社協との調整
- ◆ 県社協 ・ボランティア募集の調整 ・ボランティアの派遣
・ オブザーバー
- ◆ 県民局 ・ボランティア募集の調整

【訓練(シミュレーション)】



【高校生ボランティア交流】



共助による地域除雪の取組事例

8. 地元大学生の除雪ボランティア活用

活動範囲：市町村全域

★ポイント

- 地元の大学生と高齢者を結びつける除雪ボランティアセンターをNPO法人が運営
- 大学生ボランティアのインセンティブとして「地域通貨」、「感謝状」、「単位」を活用

- ・平成24年度、NPO法人とむての森が除雪ボランティアセンターを設立し、地元大学生を除雪ボランティアとして活用する仕組みを取り入れ、センターの自立化を目指している。

【実施主体】 NPO法人とむての森

【活動地域】 北海道北見市

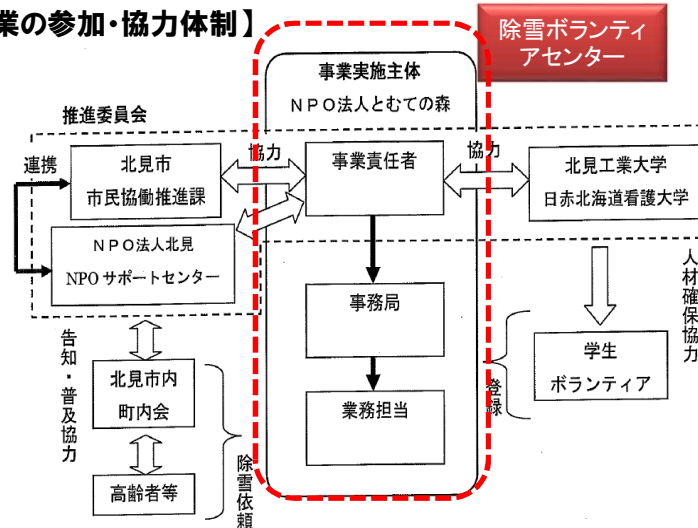
【取組の経緯】

- ・大学生の除雪ボランティア活用の構想は、当時、北見工業大学の教授（現：日赤北海道看護大学）が着想したが、学生の受け皿となる組織が当時なかったため、実現しなかった経緯があった。
- ・平成16年に設立されたNPO法人とむての森は、障害者自立支援に関わるサービスを行っており、地域通貨「金ちゃん」を使ったサービス提供も行っていた。
- ・日赤北海道看護大学の教授の働きかけにより、NPO法人とむての森を受け皿とした大学生除雪ボランティアの検討が動き出した。

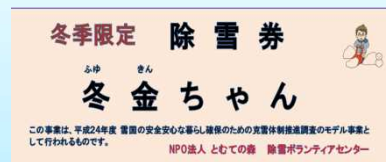
【主な取組と成果】

- ・「学生ボランティアを活用した除雪ボランティアセンター整備委員会」を組織して仕組みを検討した。除雪活動はとむての森の地元で、日頃から関係の深い町内会でのモデル検討とした。
[委員会メンバー]
・柏泉町内会関係者、日赤北海道看護大学教授、北見市、NPO法人北見NPOサポートセンター、NPO法人とむての森
- ・ボランティアセンターはとむての森の事務所内に設置した。除雪専用の地域通貨を発行して除雪依頼者は大学生に支払う。学生ボランティアは2つの大学の学生支援課等を通じて募集を行うとともに、登録学生に対して除雪依頼を電話、メール、SNSで行った。
- ・大学生のインセンティブとして、地域通貨以外に、市・町内会からの感謝状（就職活動向けPR材料）、単位取得（看護大学のみ）を行った。

【事業の参加・協力体制】

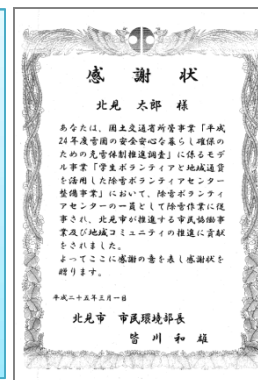


【地域通貨の仕組み】



- ・期間限定
- ・7枚5,000円で販売
- ・チケット1枚で30分の作業を依頼
- ・ボランティアは1枚で150円以下のパン2個2枚で飲食券として使える

【感謝状(北見市)】



掲載事例の基礎情報

区分	事例NO	事例名	実施主体	実施地域	地方					人口規模(自治体)					活動分類													活動開始年	連絡先(電話番号)	関連URL												
					北海道	東北	北陸	中部	近畿	中国	1万人未満	1~3万人	3~10万人	10~30万人	30万人以上	計画づくり	活動場所					組織づくり			ボランティア属性						料金	安全対策の検討	シンポジウム等	人材派遣	交流イベント	冬期居住	技能伝承・人材育成	ICT活用	助成制度			
「雪国イノベーション創出」事例	1	簡易な「命綱」、「アンカー設置工法」	NPO法人中越防災フロンティア	新潟県長岡市			○																																H25	公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター 0258-39-5525	http://blog.snow-rescue.net/	
	2	除雪ボランティアを取り入れた「社員研修」	一般社団法人北海道開発技術センター	北海道当別町	○								○																											H24	一般社団法人北海道開発技術センター 地域政策研究所 011-738-3364	http://www.dkcne.or.jp/index.html http://voluntary.net/
	3	県内・非豪雪地帯住民による除雪支援	高島市社会福祉協議会	滋賀県高島市						○					○																									H24	社会福祉法人高島市社会福祉協議会 法人本部地域福祉課 0740-36-8220	http://takashima-shakyo.or.jp/index.php
	4	除雪ボランティアセンター運営ノウハウの成熟化	柏崎市社会福祉協議会	新潟県柏崎市						○					○																									H22	社会福祉法人柏崎市社会福祉協議会 地域福祉課 0257-22-1411	http://www.syakyou.jp/welfare/volunteer.html
	5	地域除雪を通じた地域間交流・人的交流の拡大	尾花沢市民雪研究会	山形県尾花沢市							○																○		○											H20	尾花沢市除雪ボランティアセンター(事務局:尾花沢市社会福祉協議会)0237-22-1092	http://www.obanzawa-syakyo.jp/
共助による地域除雪の取組事例	1	三瀬スノーシューパター(S.S.S.)	鶴岡市三瀬地区自治会	山形県鶴岡市																																			H24	鶴岡市三瀬地区自治会 0235-73-2001	http://sanze.jp/	
	2	町内会登録ボランティアのモデル検討	平内町社会福祉協議会	青森県平内町												○																								H25	社会福祉法人平内町社会福祉協議会 017-755-3956	-
	3	池月を助け隊	池月サポートセンター	宮城県大崎市																																				H23	池月サポートセンター 0229-78-2787	-
	4	冬の通学路の見守り	NPO法人市民活動支援組織NIVO	福島県会津坂下町													○																							H25	NPO法人市民活動支援組織NIVO 0242-84-2135	http://nivo.jp/
	5	銀山地域づくり研究会	銀山地域づくり研究会	北海道仁木町							○																													H25	仁木町企画課 企画防災係 0135-32-3953	http://www.town.niki-hokkaido.jp/soshiki/kukaku/more.html
	6	まちぐるみの除雪支援体制	藤里町社会福祉協議会	秋田県藤里町																																				H25	社会福祉法人藤里町社会福祉協議会 0185-79-2848	http://www.fujsatog-shakyo.jp/
	7	ボランティア募集・受入シミュレーション	香美町社会福祉協議会	兵庫県香美町														○																						H24	社会福祉法人香美町社会福祉協議会 村岡支所 0796-98-1000	http://www.kami-shakyo.org/
	8	地元大学生のボランティア活用	NPO法人とむての森	北海道北見市							○																													H24	NPO法人とむての森 0157-32-8715	http://tomute.org/